

指定管理者評価表

1 基本情報

(1) 公の施設の名称	
堺市立文化館	
(2) 施設の設置目的	
市民に美術作品等の鑑賞の機会及び発表の場を提供し、もって市民の芸術文化の振興に寄与すること。	
(3) 所管部局	
文化観光局 文化部 文化課	
(4) 指定管理者名	
公益財団法人堺市文化振興財団	
(5) 指定期間	
平成31年4月1日から令和6年3月31日まで（5年間）	
(6) 主な事業	
<ul style="list-style-type: none"> ・貸館業務をはじめとする施設の管理運営に関すること ・施設設備の維持及び修繕等、保守管理に関すること ・消防訓練や避難経路の確保を行い緊急時の対応に備えること ・市から貸与を受けた備品を適切に管理すること ・利用者の意見を管理運営に反映させるため、アンケート等による意見聴取を行うこと ・作品等の活用、適正な整理・保管及び調査・研究等を行うこと 	
(7) 有料施設の有無	
有（利用料金制）	
(8) 公募・非公募の別	
<p>非公募</p> <p>（非公募の場合その理由）</p> <p>堺 アルフォンス・ミュシャ館は故土居君雄氏から寄贈されたアル・ヌーヴォーの代表画家アルフォンス・ミュシャの初期から晩年期にわたる作品を約500点所管している。さらに、一般貸出できるギャラリーでは、堺市所蔵美術作品展や堺市展など、市の芸術文化施策と密接に結びついた事業を体現する場として活用されている。これらは市の貴重な財産である所蔵作品に関する調査・研究業務及びそれらの作品を活用した展覧会等の企画・実施を行ってきた学芸員が、継続的に業務を行ってきた成果といえる。特に市の所蔵作品資料に関しては、その重要性を十分に理解し、市の意向を汲んだ取扱いができる管理者が不可欠であり、そういった点も踏まえ総合的にみて、文化館は長期的・継続的な視点に基づいた管理運営がなされるべき施設である。</p> <p>堺市文化振興財団は「市民の文化活動の振興を図り、地域文化の創造に努め、市民生活の向上と地域の発展に寄与すること」を設立目的とした市の出資法人であり、これまでもその特性を活かし、市の文化施策を反映した多彩な事業を市内の各文化施設で展開してきたと同時に、平成18年度からは文化館の指定管理者として、設置目的に即した管理方針に従って、適正な管理運営の確保、利用者サービスの向上への取り組み、収支の実績において確実な成果をあげている団体である。また、文化館の特性を理解し、適切に業務を遂行することのできる、柔軟な対応に長けた団体である。</p> <p>これらの点を踏まえ、効率的かつ柔軟なサービスの提供ができる指定管理者として堺市文化振興財団に随意指定するものである。</p>	
(9) 主な利用者	(10) 市内における受益対象者数
市民	不特定多数
(11) 近隣の類似施設名及び当該施設の評価に用いられている指標	
無	

2 管理運営状況

(1) 特筆すべき事項(地域貢献等の実績、取組、成果等)

堺 アルフォンス・ミュシャ館の展示については、前年度に引き続き他館からの展示作品借用や展示サインの形態工夫などの展示手法の幅を広げるとともに、アートフラワーと作品の融合展示など従来にないコラボレーション型企画展を実施し、展示手法の幅を広げた。さらに、令和元年度においても引き続き新日春展を開催し、多くの方が館を訪れた。

(2) 利用者サービス

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
指定管理者名	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団
ア 利用者数 (人)	31,398	40,216	48,046	43,141	
利用者数の算出方法	堺 アルフォンス・ミュシャ館の観覧者数とギャラリーの入場者数				
市による状況分析	展示手法を工夫して利用者数の獲得に努めたが、新型コロナウイルス感染症の影響により昨年より減少した。				

イ 稼働率 (%)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
稼働率	45.1	47.3	44.5	44.5	
稼働率の算出方法	ギャラリーの使用可能区数における使用区数の割合				
市による状況分析	冬季の低稼働率を向上させることができず、年間稼働率が低下した。				

ウ 利用者満足度 (%)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
利用者満足度	97.0	94.8	99.1	97.9	
利用者満足度の測定方法	主催事業の入場者及び貸館利用者合わせて2,766人からアンケートを回収し、5段階評価のうち3(普通)以上を満足として測定				
市による状況分析	魅力ある企画展の実施や来館者視点の管理運営を通じ、ミュシャ館観覧者及びギャラリー利用者の満足度は高水準で推移している。				

(3) 管理体制等

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
ア 職員数(人) ※各年度4月現在	8	8	8	7	6
イ 職員研修(回) ※令和2年度は予定回数	9	9	23	13	14
ウ 要望、苦情等(件)	0	1	0	1	—
エ 事件、事故等(件)	8	0	2	2	—
市による状況分析	来館者対応の向上や学芸員としての資質向上に向けた研修を行っており、こういった人材育成の取組等が、魅力ある企画展の開催等を通じた利用者満足度向上の一助になっていると考えられる。				

(4)収支状況(単位:円)

■指定管理業務

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(予算)
ア 収入	指定管理料	80,365,042	80,762,924	79,600,000	80,228,392	81,075,000
	利用料金	7,863,620	9,221,700	11,367,560	12,071,780	12,200,000
	負担金	0	0	0	0	0
	その他収入	355,901	131,000	353,050	229,821	0
合 計		88,584,563	90,115,624	91,320,610	92,529,993	93,275,000
イ 支出	人件費	29,682,144	30,479,330	31,450,482	32,731,933	32,313,000
	委託料 ()内は総支出額 に占める委託料の割合	22,596,765 (25.4%)	22,662,430 (26.0%)	26,198,786 (28.2%)	36,326,841 (39.1%)	35,934,000 (38.5%)
	修繕費	1,074,170	437,400	194,616	248,653	800,000
	光熱水費	9,000,468	8,979,848	7,470,884	6,969,581	7,450,000
	その他経費	26,534,239	24,705,287	27,452,899	16,578,608	16,778,000
合 計		88,887,786	87,264,295	92,767,667	92,855,616	93,275,000
利用者一人当たりの支出額		2,831	2,170	1,931	2,152	—

ウ 収支差額	-303,223	2,851,329	-1,447,057	-325,623	0
--------	----------	-----------	------------	----------	---

エ 市への納付金の額	0	0	0	0	0
------------	---	---	---	---	---

オ 徴収委託の場合 の徴収額	—	—	—	—	—
-------------------	---	---	---	---	---

市による状況分析	前年度に対して支出はほぼ変わらなかったが、魅力ある企画展の開催等により収入が増加したため赤字幅が小さくなった。
----------	---------------------------------------------------------

■自主事業 (有)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(予算)
ア 収入	1,573,613	2,179,156	1,976,554	3,682,242	3,820,380
イ 支出	2,129,491	2,645,475	3,866,637	6,391,088	3,065,650
ウ 収支差額	-555,878	-466,319	-1,890,083	-2,708,846	754,730
エ 市への納付金の額	0	0	0	0	0
オ 事業数(回)	9	15	16	20	
カ 参加者数(人)	1,165	3,133	4,128	3,564	

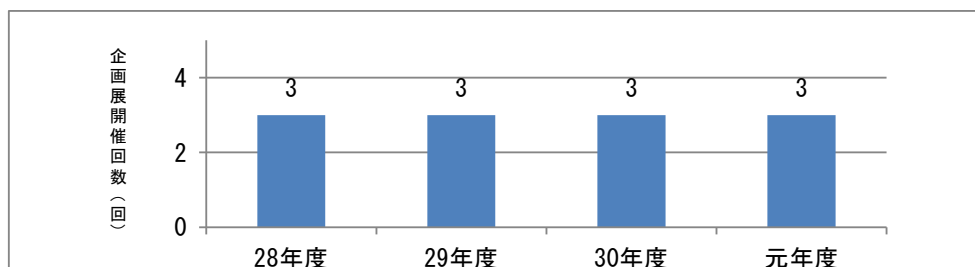
主な自主事業	ギャラリー活用事業 ミュージアムショップ 自動販売機管理運営
--------	--------------------------------------

市による状況分析	令和元年度は自主事業の回数を増やした。ワークショップなどは集客数が限定されるためコスト面での課題はあるものの、前年度に引き続き新日春展の開催や親子でのワークショップ、障害者アートの普及に向けた展示など多様な事業を実施した。
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 目標管理、評価等

(1)適正な管理運営の確保

目標管理	評価の指標	アルフォンス・ミュシャ館の展示（常設展、企画展、特別展等の開催件数）	（設定理由） 展示を行う館としての適正な管理運営の確保を評価する一つの指標であると考えられるため。
	目標	年間3回以上	（設定理由） 4ヶ月に1回程度実施するものとして目標値を設定している。
	実績	企画展3回開催	（分析） ※目標未達成時は詳細な原因分析 目標を達成することができた。



平等利用、維持管理、人員配置、事故対応、安全・緊急時対策等に関する特記事項	開館後19年を経過し、施設・器具等に経年劣化による不具合が発生しだしているが、部品交換及び部分補修等により費用節減と機能維持を図っている。
---------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------

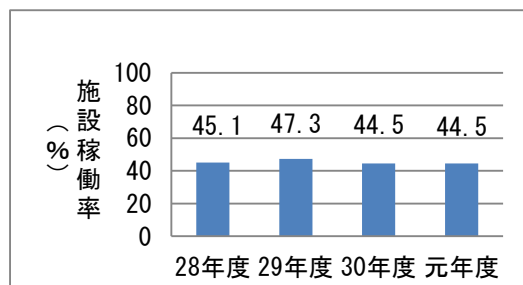
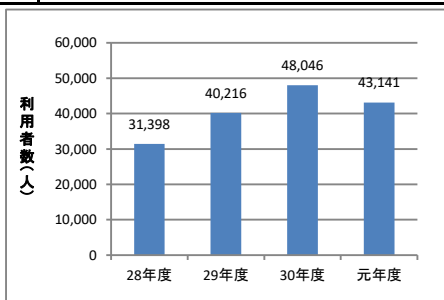
利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	施設管理・接客対応・広報など全般的に好評を得ている。
-----------------------	----------------------------

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価
	評価	A	
	具体的な理由	ミュシャ没後80年を機とする展示企画においては、他美術館や外部団体との連携による企画展示を模索し、企画展内容の刷新を図れた。また、展示展開全般にユーザーオリエンテッドを意識し高い満足度の獲得につながった。	市が求める基準に基づき年間3回の展示を行った。各回異なった魅力ある企画展を展開しており、利用者満足度の向上やリピーターの獲得につながっている。
対応策等	引き続き、企画にあたり「来館者視点を意識する」ことを再確認し、観覧者に高評価を得られる企画展内容を提供できるよう、従来手法に捉われず多面的な取り組みを積極的に展開する。	より一層の利用者ニーズに合った魅力ある展示計画や自主事業及び貸館業務を行うことで、文化館のより一層の活性化を図りたい。	

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取り組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取り組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの

(2)利用者サービスの向上への取組

目標管理	評価の指標	利用者数 施設稼働率	(設定理由) 施設の利用しやすさや施設で行う事業の魅力 を反映する指標の一つであると考えられるため。
	目標	【利用者数】年間入場者数5万人以上 【施設稼働率】年間稼働率60%以上	(設定理由) これまでの実績を踏まえた目標値を設定している。
	実績	【利用者数】 年間入場者数43,141人 【施設稼働率】 年間稼働率44.5%	(分析) 冬季のギャラリー利用者が少ないことに加え、 新型コロナウイルス感染症の影響により目標を達成することができなかった。



利用者サービス、利用促進、自主事業、人権尊重に配慮した情報提供、利用者意見・要望の反映等に関する特記事項	ギャラリーの新規利用者の獲得に向け、前年度に引き続き新日春展を開催した。また、地元商店会主催事業への参画など、館として内外に向けて能動的な活動に注力した。
------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------

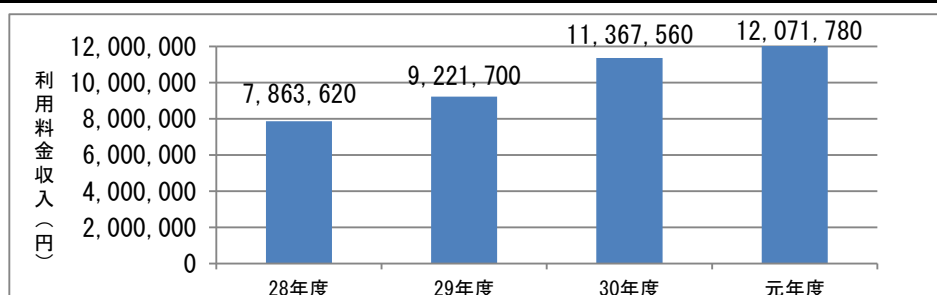
利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	監視・受付スタッフの対応について苦情があり、各スタッフに対して研修を行った。
-----------------------	----------------------------------------

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価		
	評価	B		B	
	具体的な理由	ギャラリーは、前年に比し市民芸術祭の会場移転での4.5千人減、市展など大規模展示会で3.5千人減など各展示会での集客減が影響した。また、利用者の冬季利用忌避傾向により冬季稼働率の改善に困難があった。ミュシャ館では外部連携などによる新機軸の企画展開で観覧者数向上を果たせた。		魅力ある企画展の展開等を通じ、利用者満足度は高水準を維持できているが、ギャラリーの稼働率は低下傾向にある。	
対応策等	ミュシャ館は、SNS配信頻度増など効率の良い広告手法、生誕160年を機にした話題醸成により集客増に努める。ギャラリーは、広報活動強化と集客力の高い展示会との連携、利用者開拓営業や自主事業展開を図る。		現ギャラリー利用者の高齢化による定期利用者の減少に対し、新規利用者の獲得や稼働率の低い冬季の利用促進を実施し、ギャラリーの稼働率向上を図りたい。		

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの

(3) 収支の実績

目標管理	評価の指標	利用料金収入	(設定理由) 施設の利用しやすさ、または施設で行う事業の魅力や反映しやすい指標の一つであると考えられるため。
	目標	1,200万円以上	(設定理由) これまでの実績を踏まえた目標値を設定している。
	実績	12,071,780円	(分析) ※目標未達成時は詳細な原因分析 目標を達成することができた。



収入増加のための取組、収支状況、経営状況、経理事務等に関する特記事項	魅力ある企画展の展開等の開催や新たな顧客獲得に向けた事業の誘致等を通じて、利用料金収入の増収を図った。
------------------------------------	-----------------------------------------------------

利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	特になし
-----------------------	------

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価	
	評価	B	A	
	具体的な理由	対目標104.1%を達成した。観覧料は前年度より約1か月少ない状態で約103万円の増収、ギャラリーは、臨時休館による還付の影響により前年度を約47万円下回った。	利用料金収入は増加傾向にある。また、令和元年度においては、新型コロナウイルスの影響等により臨時休館期間があったものの利用料金収入が増加していることは評価できる。	
対応策等	ミュシャ館広報活動等の拡充による観覧者数増、ギャラリー新規利用者の獲得に向けた活動強化によるギャラリー稼働の向上、ミュシャ館共通入場展示会開催施策の実施など、利用料金収入向上に向けた取組を実施する。	管理費をはじめとしたコスト削減とともに、魅力ある企画展や事業展開に伴う利用者の増加等により、経営効率の一層の向上を図りたい。		

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組を行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組を行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの